

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

開催日：令和6年8月27日（火）午後3時～5時

会場：若穂支所 2階集会室

地元参加者：85人（男性 77人、女性 8人）参加者は住民自治協議会役員、区長等

市側出席者：荻原市長、中村企画政策部長、宮島保健所長、前島教育次長（行政担当）

松本建設部次長兼道路課長、藤森若穂支所長

会議形態：議題提案回答方式

《1 落合橋架け替え、落合橋南詰交差点・関崎橋交差点の早期改良》

《提案》

落合橋が完成してから58年目である。通行の折には、橋げたが振動して、落ちるのではないかという不安を感じている。また朝夕の通勤時には、大渋滞が発生している。

こんなことから、市街地へ住宅を求め、親元から離れ、長野市内・市街地に家建てて、そこから通勤するという方が後を絶たない。人口減少を食い止めるためにも、地域の外から皆さんを若穂へお迎えするためにも、早期の架け替えをお願いする。また、落合橋の交差点も渋滞の原因の1つであり、これも併せて、早期の改良をお願いしたい。

7月には建設促進期成同盟会総会があり、県に要望していただいたところであり、さらにまた国や県に積極的に働きかけていただくよう、お願い申し上げる。

次に、関崎橋は、今から12年前、平成24年に長野電鉄河東線の廃止に伴って、代替バスの定時運行を行うため、また、通勤時の渋滞を解消するために、現状の交差点の改良をお願いしたものである。河東線が廃止されて12年、代替案としての関崎橋東詰の改良が、少しずつ、超スローペースで進んでいる。

もう既に、地権者等が移転して数年が経過している。バスの定時運行や通勤時の大渋滞が解決されないまま12年が経過しており、改良工事の進捗があまり見られないことから、周辺住民の苛立ちが強まっている。これについても早急な対応をお願いしたい。

最後に、私から提案がある。平成30年2月に若穂地区住民自治協議会が作った「若穂まちづくり計画」の中には、落合橋、スマートインター等の計画が記載されている。

若穂スマートインターは、故岡田市議会議員が提唱して、20年近くになり、あと3年後には、若穂スマートインターが完成するとお聞きしている。

その当時から道の駅の併設を検討されている。当時の国交省幹部からは、道の駅、落合橋、スマートインターはセットで考えましょうという助言をいただいた。

道の駅の要望についても何度かお願いしているが、そのたびに大岡や信州新町、中条の道の駅を引き合いに出されて、市はなかなかうんと言わず難色を示している。そこで、若穂地区住民自治協議会の若穂まちづくり部会で、新しいスタイルの道の駅、そのビジネスモデルはどのようなものか、というものを検討し始める。しかし、大変難しい課題である。なかなか素人では、このビジネスモデルを構築することは名案がない。

また、長野市の防災計画の中には、防災道の駅をつくるという文言が入っている。是非、善光寺平の広域的な防災拠点として、若穂の道の駅を防災道の駅として設置していただき、新たなビジネスモデルを、市の優秀な職員の皆さんと一緒に考えたい、と提案する。

是非、検討をお願いしたい。

何回か、道の駅にしても、これから出てくる若穂保健ステーションにしても、この場でお願ひしたことがあるが、同じ回答しか出てこない。できない課題を列挙するというよりも、どうすれば課題が解決するかということをお互いに進んで考えたいので、お願いしたい。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《回答》

今日お配りしている図面と全く同じものだが、少し大きくしたパワーポイントを見ながら、落合橋の架け替え、落合橋南詰交差点、関崎橋交差点の早期改良について説明させていただく。

まず1枚目の位置図、左上に議題1-①「落合橋架け替え」と書いてあるが、議題1の落合橋と落合橋南詰交差点・(図面の)丸印の牛島の交差点、この交差点のことを1-①として説明する。それから、左下に「議題1-②関崎橋交差点」と書いてあるが、この3カ所とも全部県の事業で、県の事業名として「関崎橋東詰交差点」となっているので、今後は事業名で説明させていただく。

2ページ目(写真)、これは落合橋の両側交差点における平日朝の時間帯に行って撮ったものである。渋滞していることは我々道路課も認識しているが、改めて夕方時間帯に行ってみると、非常に渋滞しているという印象を受けた。

1-①落合橋の架け替えと南詰交差点の説明をさせていただく。

3ページ目、この図面の真ん中に「落合橋中央交差点」とある。

(図面)黒い(色の)ところが今の道路の状況である。令和4年度から事業が開始し、最初に概略設計が入り、地質調査等々を経て、河川協議、千曲川河川事務所と橋の位置はどこがよいのかという相談をしつつ決まったのが、この(図面で)赤く帯になっているところである。この中央交差点という今の橋の真ん中に信号機があるところから概ね50メートル下流側に橋をかける。

落合橋の入口の交差点、新しくバイパスが大豆島の方にできるので、そこから接続させていただく。牛島の方の道路をどの辺につけるか、というところを今後詳しく、詳細な設計に入っていきたい。

概ね50メートルというところと、左下に横断図があるが、車線が3.25メートル、3メートル、3.25メートルと3車線あるが、基本2車線でいき、中央交差点や北南の交差点の部分に入るとどうしても右折車線が入ってくるので、こういう3車線みたいな2車線プラス付加車線ということで書かせてもらっている。

歩道は3メートル両側につける予定である。それから、右側の四角いところに概略設計、地質調査と書いてあるが、令和5年の3月頃から、地元の牛島とか大豆島の区民に概略の説明に入り、(資料の)今年度は橋梁の詳細設計を県が予定している。

それから、前後の取りつけの道路、落合橋交差点という大豆島側と南側交差点という若穂側の交差点の形状、つまり橋が架かると同時に堤防道路も橋に合わせて付け替えるようになるので、堤防道路をどう混雑なく車を動かすかというところについて、設計を令和6年度県で行っている。

県の方で、なから形が決まり次第、地元若穂、大豆島の皆様へそれぞれ説明会を行いたいというお話をいただいている。それから、令和4年度に事業化ということで、そうは言ってもまだまだ先は長いと思われる。

その中で、現在の落合橋は、先ほど委員長から話もあった揺れは、ゲルバー橋という形式の名前の橋であり「ヒンジ」というところを使っており、それでちょっと揺れる構造になっている。夏の暑さとか冬の寒さで縮んだり伸びたりするときに、余裕を持たせないといけないので、そういう意味からヒンジを使うことによって自由度が増し、橋の寿命ももつというところで、最初に計画されて、コンクリート橋から今の橋になったときにそのような構造となっている。今の橋が落ちてしまうと当然困るので、県としては橋梁の長寿命化対策として、アスファルトの舗装し直しとか鉄筋の劣化の修正とか、今年度は引き続き延長70メートルの区間、橋の表面補修とアスファルトの修繕をしっかりやっていきたい、と県から聞いている。完成するまで、順次維持管理を行っていくということである。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

南詰交差点の渋滞対策は、(3 ページの図面の)真ん中に書いてあるが、堤防道路の立体交差と平面交差の設計をしているところである。あと、合流部の右折レーンの増設、右折レーンは今でも少しあるが、新しい橋は車線が広がるので、右折レーンの長さも長くなる。それから信号機、信号表示、ここの5差路の信号、ボックスを1個作ることによって信号機のサイクルも減り、その分渋滞も解消される、というところで渋滞対策を行っていきたい。

続いて1-②関崎橋東交差点について説明させていただく。委員長から、超スローペースというお叱りの言葉もいただいた。県では順次進めており、境界立ち合いとか、山の斜面の部分の埋文の関係とか、境界立ち合いの関係もあり、動いていなかったということではなく、動いていたことは動いていた。県の方は全体計画520メートルで、そのうちこの合流しているところからここまでの道に関しては両歩道を作る計画で、それから外れた川田の方、松代の方に関しては、わずかの区間であるが、北側の歩道、片側歩道を作っていくという計画である。今年度は、この赤く囲ってあるこちらの道路を北側に広げるところの用地買収と埋蔵文化財調査もあり、それから一部できれば工事に入りたいということである。市としては、先ほど説明した南詰交差点と同様に地域の皆様のご要望をしっかりと受けとめながら、落合橋、関崎橋に関して早く完成できるように、各同盟会を通して、市長が会長である同盟会があるので、連携して、引き続き強く県に毎年要望していきたいと思っている。また、それに伴い、工事とか入ってくると皆様の生活もご不便かけることもあるので、ご協力をお願いし、説明とする。

[松本建設部次長兼道路課長]

《回答》

道の駅ということでお話いただいた。昨年、一昨年、今回引き続きご要望いただいている。今回、防災道の駅というお話をいただいた。ハザード上の問題とか、こういった位置に設置するのか、そういった部分はしっかり関係部長と話をしていかなければいけないと思っている。まず道の駅ということで考えたときに、スマートインター完成後、交通量がどれぐらいあるのか、そういった部分をしっかり吟味しながら、経営的に成り立つのか、そういった判断をしながら進めていく必要があるかと思うので、引き続き、一緒に研究をさせていただきたい。

[中村企画政策部長]

《意見》

令和8年4月に、オリンピック道路、今、長野南バイパスと言っているが、あの橋が無料化されるはずである。令和8年4月から無料化になるのかどうか、それから落合橋の完成と渋滞緩和、関崎橋の渋滞関係、これを長野市ではどの程度把握されているのか、お聞きしたい。

《回答》

五輪大橋は、令和8年12月をもって無料化になる。それに対しての交通の動き等々、長野市としてはシミュレーション的なものは行っていないが、それに伴い県の方では大豆島のエムウエーブから五輪大橋まで、今2車線化、片側2車線ずつの4車線化を進めている。それと令和8年12月には無料化になって、車の動きがどう動くかということもあり、それに伴い関崎橋、落合橋の車の調査も、長野市として県の交通量調査などの様子を見て、今後の計画を進めていきたいと思っている。

[松本建設部次長兼道路課長]

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《意見》

2点ほど伺いたい。まず落合橋の架け替えについて。丹波島の架け替えの話もあり、言い方を変えると競合している建設工事ではないかと思うが、丹波島は交通環境全体、前後の交差点の渋滞とか、いろいろ複雑な問題が絡んでいるので時間がかかると思うが、落合橋は単純に老朽化が一番の課題だと思う。早く解決してもらわないと、本当に若穂は孤立する。是非これを優先的に考えていただきたい。それから関崎橋の問題については、同じ国道403号の改修の中で、金井山の地域は左側・右側に2、3メートルずつ、虫食い状態で、多分そんな工事無駄だと思う。関崎橋は、条件かなりそろっているのに、着手できるところは優先して着手し、工事は進んでいるという状況をぜひ見せていただきたい。

《回答》

落合橋と丹波島橋だが、丹波島橋は事業化も何もまだ進んでいない状況であるが、落合橋はもう事業化して、国も了承し、お金も毎回申請して作っていくという計画で進んでいるので、落合橋の方が早く完成する。あと関崎橋について、大切なご意見をいただいたので、用地買収も進んだところ、補償も済んだところがあれば、工事の着手を私の方から明日にでも長野建設事務所にお話させていただきたい。

[松本建設部次長兼道路課長]

《意見》

落合橋に関して、どうしても他の地区と比較してしまう。若穂から長野市街地へ行く場合は屋島橋、落合橋、関崎橋で、関崎橋は松代と共用で、若穂から行くと落合橋一本しかない。それに比べ、松代は関崎橋、高速道、松代大橋は4車線、赤坂橋。要するに地図見てわかるが等間隔にしか並んでいない。人口に比例しないで橋がかかっている。

若穂は奥に深い。人口は松代の方が多いが、人口に比例しないで、ただ等間隔に橋を架けると、そのような状態になる。基本的に最低でも落合橋4車線、人口から言ったら本来なら松代からもう一本あってもよいくらいだと思う。とにかく落合橋は、若穂だけではなく、大豆島から渡って牛島まで来て右折して、要するに若穂に用事がない人もいっぱい使っている。若穂の住民が自由に使える。本来なら一番望むところである。

《回答》

一番は救急車も渋滞の中どう渡るのか、10分20分遅れてどうするというお話もいただいている。いただいた貴重なご意見について、県へ話すとともに、市長を会長とする同盟会で県へ強く早期完成を要望していきたいと思う。

[松本建設部次長兼道路課長]

《議題2 若穂保健ステーションの弾力的運用について》

《提案》

現在保健ステーションの利用率は60%から70%で、活用状況に余裕がまだまだある。そこで、利用希望をもう少し組み入れていただき、有効なセンターの活用をお願いしたいと思い、以下2点お話をさせていただく。

1つ目。若穂地区は200人以上収容の建物が非常に少なく、支所と保健ステーションしかない現状である。最近の事例では、支所にエレベーターがないことで、音楽講座や座って行う体操等いくつかの企画に対して2階まで上がれないという理由で、駐車場までお見えになっているにも拘らず、参加せずに帰宅されたというような情報も届いている。

地域保健法では、保健センターは、住民に対し、健康診断、保健指導、健康診査その他地域活動に関し必要な事業を行うことを目的とするとうたわれている。

そのために、目的にもある健康増進事業とは、地域活動に関し必要な事業であることから保健ステーションの弾力的な使用拡大をお願いしたい。

2つ目。令和3年から子供の健康診断が松代保健センターに統合になっている。

令和2年までのように、若穂独自で健診ができるようにしていただきたい。

松代保健センターに統合の理由は十分理解している。

一つ目は、令和5年度の若穂地区の出生数が50名ということで、健診の受診数が一定数集まらないということ。そして健診には必要な職員の配置が必要であり、医師、保健師、そして栄養士や指導相談員等いろいろな人員確保にコストがかかるということもわかる。松代保健センターよりも、大豆島や三陽保健センターの方が近いが、そちらの方は健診後の事後措置に追われており、他の地域まで人数を増やすことができないということを聞いている。

これらを十分理解した上で、あえてお願いしたい。

要望の理由であるが、若穂から松代へは、8キロから16キロかかる。車の運転ができない親もおり、時間的にお昼寝中の子供を連れての移動というのは非常に母子ともに大きな負担になっている。そして、子供の健診は、子育て中の母親にとって情報交換の場として大変重要である。たまにしか行かない健診において、地区外での方とのコミュニケーションも非常にとりにくいということを伺っている。

以上、この2点について、ご検討いただきたい。

《回答》

現時点での市の検討結果、それから今後についてご説明させていただきたい。

保健センターの役割は、健康の保持、また市民の保健衛生の向上を図る目的である。

これに基づき、長野市内では8カ所の保健センターについて、設置及び管理に関する条例を作り、これに基づいた運用を保健ステーションで行っている。

①若穂保健ステーションの使用は、未就学児に関する相談や、がん検診、健康食生活、運動健康増進に関係することである。

保健に関する内容などを目的とした使用申請については、許可をさせていただき、地元の皆様をはじめ、様々な団体の方にご利用いただいていると認識している。乳幼児健診などを行っていたときには、お子さんたちの安全・安心な検診を行うための設備、あるいは優先度等を考え、今までなかなかこの使用の許可を広げることができていない。

やはり保健的なことを優先ということで現在は考えているが、今後保健ステーションというものの役割を皆様と一緒に考えながら、ということでは、大変貴重なご提案をいただいたと思っている。現時点ではなかなか条例を改正するということまで至っていないが、将来を見据えて、また検討させていただければと思うので、現時点では現行の運用でご理解をお願いしたい。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

②乳幼児健診は、お子さんたちが確実に育って、問題ないということを専門家と一緒に確認をし、安心していただくという面で非常に重要なものだと思っている。

その際には、複数のお子さんたちと一緒に自分のお子さんが健診を受けている様子を見て、大丈夫と思うとか、あるいはお母様同士が情報交換をすることにより、不安なことに対して対応できるような、そんな場になるように心掛けている。

また、検診の適齢時期というものもあり、お子さんの1カ月、2カ月というのは、成長の面では非常に大きな時間で、その中で適した時期にしっかりと受診をしていただいて健診を受けるということが大事と考えている。その中で子供が安全に健診を受けることが可能な施設の広さ、あるいは部屋の数、そして、感染対策などの安全面も考慮して、現時点では令和3年度から松代保健センターでの実施とさせていただいている。

1回に受診するお子さんが、複数の中で健診を行った方がいいということで、何人ぐらいがいいかと言うと、大体20人から30人ぐらいの中で健診を行うことが理想と言われている。

長野市全体として、各保健センターが地区だけではなく、保健センターごとに現在見直しをしており、地区に限らず安全で、安心した健診を受けられる人数で計画し、実施をしているところである。

若穂保健ステーションにおいての乳幼児健診だが、令和2年度までは、異なる月齢、1歳6カ月児と3歳児を一緒にして、人数をある程度確保して実施せざるをえない状況にあったが、その際には、1歳半のお子さんと3歳のお子さんが全く動きも違うので、一緒に健診をすると非常に危険な場面もあり、十分な広さを確保できないということや、安全に健診が実施できないということから、なかなか困難な面もあった。このようなことから、現時点では乳幼児健診を若穂保健ステーションにおいて実施することは難しいと考えている。コロナ禍のときに、乳幼児健診が一時、延期中断されたこともあるが、その際、いろいろな情報、ネットを含めた情報を保護者の方が見ることで不安になったり、精神的に参ってしまったりする保護者もいた。そういう中で、できるだけ保護者の方が、子育てに自信を持ってもらい、また確認できる場を少しでも増やしたいと思っている。そういう意味で申し上げますと、やはりある程度の人数の集まった健診が望ましいと考えているので、現時点では松代保健センターでの健診ということでご理解をいただきたいと思う。

[宮島保健所長]

《意見》

数年前に同じ議題で、この場で討議したが、その時とあまり、回答が変わっていない。

私たちが何を心配しているのかというと、公共施設の統廃合で、まず一番やり玉に上がるのは利用率の低い施設である。保健ステーションは利用率が低すぎる。

そうすると、廃止、解体という運命になるのではないかと、非常に心配している。

それなら、会議室として使わせていただけないかという単純な要望である。

医者、看護師、保健師の数が限られているということであれば、遠くへ行くのもやむを得ない。真島とか三陽保健センターとか、近いところへ行くのもやむを得ないと思う。若穂でやっていただければ一番ありがたいが、そういうことで、廃止になってしまって解体されたら、せつかくの施設がもったいない。

公民館と支所の会議室は、空いていることもあるが、3月、4月はほとんど空きを見つける方が大変なぐらい混んでいる。

もう少し使用条件を緩くして、気安く貸してほしいとお願いしているが、真意が伝わっていない。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《意見》

今の答弁を聞いて、非常に腹立たしく感じた。

全く誠意がない回答にしか思えない。

若穂にあって、そこで保健ステーションで面倒見ていただきたいという要望に対して、一言もそういう回答にはなっていない。

法で決められたからできない。そういうことを私たちは要求をしているのではない。

みんなで話し合って、必要だからということで、要求を市に上げている。

それを条例でできませんでは、全然前向きな回答にはなっていない。

それを回答していること自体が私は問題だと思う。

真剣に考えていただきたい。

《回答》

施設の統廃合ということを非常に心配されていると思う。

公共施設については、公共施設個別施設計画というものを市で定めている。

手元に資料がないが、確かその中では統廃合の対象にはなっていないかと思うので、あとはどういう趣旨の将来的な展望を持つかということになってくるかと思う。

その点については、あまりご心配いただく必要がないかなと考えている。

お叱りのお言葉をいただいたが、行政側としても制度的にできるものについては、是非入れていきたいと思うし、ただ、やはりどうしてもできない部分というのは、ご理解をいただきながら行政を進めていくしか仕方がないのかなと思っている。

[中村企画政策部長]

《加藤市議会議員》

この件に関して、令和5年3月議会定例会で質問させていただいた。

当時の池田総務部長に答弁いただいたが、部局横断していろいろ検討させていただきながら、どういう形で利用できるか、庁内でも考えていきたいと確か答弁いただいたかと思う。

庁内でどんな話があったのか、またぜひそこを教えていただきたいと思う。

確かに若穂は公共施設が少ないところであり、その有効活用という面では、支所・公民館・保健ステーション、それぞれいろんな立場があるが、緩和を少し考えていただきたい。本当に住民の切なる願いであるので、ぜひもう一度ご検討いただければと思う。

《回答》

今、検討状況についてお尋ねいただいたが、今回、保健ステーションという縛りについては、いろいろ検討すべきところがあったと思うが、いろいろな問題を解決しなければいけないと思う。ただ、皆様提案の使用状況ということは、現実的に行政としても、実態に合ったものは必要と思っはいるが、ご理解いただかなければいけない部分もある中で、一緒に考えさせていただける機会をこれからも作らせていただきたいと思う。

[宮島保健所長]

《意見》

何年か前に同じ議題を提案したのだが、今回持ち帰るということでは、やはりまた同じ答えになるのかなと思うので、いつまでに検討するというある程度のめどを教えてください。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《回答》

前回から変わっていないというご指摘の中で、今後の方向性を考えなければいけないと、非常に重く受けとめている。この場でいつまでには申し上げられないが、その時期についても市としての検討をして、お答えできるような形を考えたいと思っている。申し訳ないが、この場ではご勘弁いただきたいと思う。

[宮島保健所長]

《意見》

先ほどの乳児健診が松代保健センターのみということで、質問にもあったと思うが、三陽とか真島保健センターは使えないのかということで、婦人検診の場合は、私も若穂が満員だったので三陽に行ったとか、そういう事例がたくさんある。

若穂地区は市街地にお勤めされているお母さんが多いので、地理的に松代の方に行くよりも、三陽とか真島とかで健診ができるならば便利だと思う。

市長さんも子育て支援には大変力を入れているということで、若いお母さんたちから事務局にもそういう意見が上がっているの、柔軟性もあっていいのではないかなと思うが、如何か。

《回答》

長野市内で保護者の利便性であるとか、お子様の通園先とか、いろいろな事情があると思うので、その中で松代だけではなく他の保健センターの可能性は十分に考えられることと思う。これについては前向きに検討させていただく。

[宮島保健所長]

《意見》

先ほど検討するという話があった。今、いつまでには回答できないと話された。検討するという事ではないのか。お答えできないということなのか。困らせているようで申し訳ないが伺いたい。

《回答》

保健ステーションの役割というところについて、私どもだけでは判断できないので、前回から今回まで状況が変わっていない中で、どんな方向にするかということを検討する時期については配慮させていただきたい。

[宮島保健所長]

《意見》

検討するのは保健所で検討するという事によいか。そうじゃないのか。

《回答》

保健ステーションとして、それ以外の利用範囲となると、私どもの範囲を超える部分もある。

[宮島保健所長]

《意見》

いつまでに回答できないならば、どちらがそれを検討してくれるのかをお答えいただきたい。例えば、企画政策部なり、あるいは違うところの部署なり、保健福祉部かどうかわからないが、どこでお答えできるというのをいただければ、そこでお話できる。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

そうすると今後に繋がっていく。みんな不安に思っているのは、ここでもう終わってしまうと思っている。だからそれが不安な部分である。何回もこうして質問することは、それだけ我々が真剣に考えているということを受け取っていただいて、大変と思うが、今日じゃなくてもいいがご回答いただければありがたい。

《回答》

皆様のご要望について、今回この場で思いを受け取らせていただいたと思っている。大変申し訳ないが、私の立場で保健以外にも使っていないというのは、範囲外になってしまって申し上げられないということをご理解いただいた中で、今ご指摘いただいた他の用途で利用する場合の、どんなことをクリアするかということについては、申し訳ないが市の他部局とどこが担当になるかを含めて検討させていただく。

[宮島保健所長]

《加藤市議会議員》

その件に関しては前回総務部で、一応公共施設ということで扱っていただいたので、今回も総務部がいいのかなと思う。それと保健ステーションの乳幼児健診も、委員会と思うが、以前小林所長さんといろいろ話をさせていただき、若穂に戻すのはなかなか難しいというのは理解させていただいた。例えば、真島での健診に関しては問題ないというご回答もいただいた。ただ、住民の皆さん、お母さん、お父さんが分かりづらいということで、案内の冊子に、どこで受診しても構わないということをうたって欲しいということでお願いしたところ、わかりましたとご快諾いただいた。自分も確認していないが、どこの保健ステーションを利用しても構わないというのは了解いただいている。あとはそれをどういう形で皆さんに伝えるかということ。若穂の皆さんは松代へ行かなければいけないという認識になっているので、その辺を柔軟に対応できるというところのお知らせの方法を考えていただきたい。今、現段階では、そのような状況になっていると思うので、その辺、ご確認いただければと思う。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《自由討議 1 高齢化、人口減少が進む中で、地域の公共交通機関の確保について》

《提案》

私たちが健康に、安心して移動できる交通手段は、公共交通の電車、バスの乗車、個人が自ら運転しての自動車、バイク、自転車での移動である。

高齢化、人口減少の影響で、乗車人数の減少に歯止めがかからず、バス路線は減便または廃線の現実が迫っている。

若穂地区でのバス路線の運行状況は、長野駅から保科温泉線では、平日長野駅発 7 便、保科温泉発 6 便、土日曜日は長野駅 3 便、保科温泉からは 3 便である。土日曜日は、乗車人数の減少で、約半分・3 便の運行状況であるが、廃線にならず、運行が継続できていることは、長野市はじめ関係の方々には努力をいただいている賜物と思う。

長野駅から屋島経由での綿内駅線では、平日長野駅発 10 便、綿内駅発 12 便、土曜日は、長野駅発 8 便、綿内駅発 9 便である。土曜日は乗車人数の減少で、2 割減の 8 便の運行状況であるが、日曜日は運休状況が継続中で、利用者は 1 日も早い運行開始を願っている。

公共交通機関が不便になると、通院困難者や買い物困難者が多くなる。若穂地区住民自治協議会社会福祉部会での福祉自動車『若穂号』2 台の運行は、通院難民を救う方法の 1 つで、多くの皆様に受け入れられ、支持されている。事前に予約をして送迎を依頼するシステムで、複数の方々も乗車して通院が可能となり、運転ができない高齢者にご利用をいただいている。通院困難者が適宜格安に利用でき、利用者の満足度も高く、利用者が増加傾向にある。引き続き、長野市からの金銭的な支援をお願いする。

高齢化、人口減少が進む中で、地域の交通、公共交通機関の確保については、引き続き、長野県及び長野市からの運行会社への補助金などご支援ご協力をお願いし、公共交通機関の運行確保に、指導的な役割を、担っていただきたく、お願い申し上げます。

《回答》

ご提案いただいたように、公共交通は地域の足として大切なものである。

公共交通を担うバスの運行は、利用者の減少、運転手の不足に伴い、路線の確保自体が非常に難しい状況となっている。

若穂管内を通過する、特に長電バスについても例外ではなく、日曜日の運休であるとか、屋代須坂線においてはダイヤの見直しを進めるなど、様々な工夫をしながら、何とか今ドライバーを確保し、路線を確保している。

私どもと同じように、事業者としても、地域の足というものを確保していきたいというところで、お互い努力を重ねている状況である。

先ほどご提案いただいたように買い物、通院というように、特に高齢化社会の中で、免許返納されることもこれから多くなってくると思う。そういった部分では、欠かすことのできない地域の足なので、市としても、引き続きバス事業者と連携し、利用者、運転士不足に対応した運行方法というものについて、研究を進めながら、路線の確保を進めていきたい。

長野市では「長野市地域公共交通計画」というものがある。

長野市の場合、中心市街地やその郊外の住宅地、そして中山間地域など様々な地域の形態というものが混在している場所であり、当然公共交通のあり方というものも、地域の特性に応じたサービスの提供というものが必要となってくる。

それに対応できる公共交通のあり方というものをこの計画の中で方針を定めている。

具体的な方策としては、大きく 4 点ほどあるが、例えば運行区間が重複している路線については、見直しを行う。また、乗り合いタクシーの運行を始めて、利用者が減少したバス路線の乗り合いタクシーへの転換というものを進め、近年では市営バスの事前

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

予約によるデマンド運行、こういったものも積極的に移行を進めている状況である。

大型バスの運行が難しい場合でも、地域としての足をぜひ確保していきたい。

特に中山間地域における新たな移動手段として、今年度から信州新町・中条地区において、A I デマンドによる交通というものを進めている。

これは公共交通の空白地帯の解消、それからバスの幹線道路への効率的な接続というものを進めるもので、今後も、これは順次運行範囲というものを拡大していく計画である。

来年度には戸隠・鬼無里エリアにもこのシステムを導入していく。

同じように、若穂の保科地区においても、現在検討中であるが、できるだけ早いタイミングで、こういったものに移行ができないか研究を進めていきたい。

若穂地区における課題、再整備の方向性としては、路線バスや乗り合いタクシーなど複数の路線というものが運行されているが、やはりなかなか利用者の拡大というものが難しいことや、運行区間の重複といった、そういった課題が挙げられるかと思う。

これらの課題の解決に向け、運行経路の見直しとか、先ほど紹介したA I デマンドの導入などについて、地域の皆さんと一緒に、今後の方向性のあり方というものを引き続き考えていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

いずれにしても、公共交通が衰退する要因としては、移動手段の変化や少子高齢化による利用者の減少というものが大きな要因ではあるが、やはり一番は何よりも継続して、利用していただける人が減っている、そこが一番大きな要因となっている。

地域の貴重な足である公共交通を乗って残すという意識を持っていただき、積極的な利用を進めていただきたい。公共交通につきましても引き続き、市としても事業を拡大しながら進めていきたい。

[中村企画政策部長]

《意見》

今年6月に12地区が集い懇談会を行った。そこで社会福祉協議会から、令和5年度から特に西山方面6地区で先行してマイカー移動支援という形で、実施できることからそれぞれ個人の車を提供して、ボランティアで買い物等々の移動についての支援がスタートした話があった。実は若穂地区でも、できれば令和8年度ぐらいから実施できるように検討していこうということで提案している。現在、福祉自動車については、レンタル、リースで2台自動車を持っている。運転手についてはボランティアで、利用者は1回につき500円、そういう形で運行しているが、あくまでも病院、通院とか入退院とか、そういった限られた条件に則った人以外は利用できない状態である。

今後、バス路線の本数がどんどん減便されていくと、買い物難民も非常に増えてくる。

ついこの間、保科地区のスーパーが閉店した。買い物難民が増えている一方で、須坂のインターのところには大きなショッピングモールができるので、そういう移動支援があったら重いものも買い物できるのに、という利用を希望する方々も多いと思う。

どの程度、利用者がいるのかどうかは、アンケートなどいろいろしてみなければ分からないが、マイカーを使って一定の料金をいただいて、ボランティアでやるのはなかなか難しい。ニーズはあってもそれに応えるボランティアを確保するのは非常に難しい。今年度中に一定の方向性だけはまとめて、地域へ提案しながら、令和8年度実施に向けて、長野市社協と細かいところも相談していこうと思っており、事前の打ち合わせは終わった。

あと細かい内容についてこれからやってく段階である。その時に、長野市にお願いしたいのは、路線バスについて一定程度の補助金を出したりしながら運行を一定程度援助していると思うが、これが将来的に廃線ということになれば、そういった資金をマイカー支援にまわしてもらうことが可能なのかなのか、今後検討していただきたい。

若穂という地域は中山間地も含めて、非常に住みづらい地域になってしまうので、ぜひ、検討をお願いしたい。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

《回答》

路線バスが縮小した場合、行政側の資金というものをマイカー支援にまわしていただきたいということだが、市としては、今の公共交通という位置付けを残すことをまず最優先にしていきたいと考えている。

[中村企画政策部長]

《提案》

公共交通の路線バスについては、ずっと協議したりしてきたが、住民が乗らないで、要求していても結局は何もない。

我々も、市の皆さんや電鉄の皆さんと協議して、路線とか時間とかいろいろ便宜を図っていただいたが、結局は、乗らないで縮小されたり廃止されたりしてきた。

今の話の福祉バスとか、デマンドバスとか、大人は何とか工面できるが、どうしても工面できないのは高校生だと思う。

今電車がないから、高校生はバスでしか行けない。

最小限、高校生がどこの高校に通ってもしっかりと教育を受けられ、部活があれば部活の時間が終わっても安心して帰ってこられる。

朝も部活の時間にも間に合うように行ける。

そういったバスの時間を最低限確保していただきたい。それ以外のことは、やっぱり話し合いながら、まだ何とか余地があると思う。そういうことはぜひ長野市の皆さんに是非お願いしておきたい。

《回答》

高校生の移動手段ということについて、今回の須坂屋代線のバスのダイヤ変更に関しても、最優先に通学の足を確保できるよう部活の終了時間なども考慮したダイヤを組んでおり、そういうところもこれからも継続していきたい。

[中村企画政策部長]

《自由討議2 スマートインターチェンジ設置及び国道403号渋滞等による安全で安心の持てる通学路、スクールゾーンの設置について》

《提案》

若穂スマートインターチェンジは、長野市中心地から一番近いインターとして利用が望まれ、地域の活性化に大いに寄与していくことが想定され、完成が待たれるところである。

しかしながら、スマートインターチェンジが設置されることにより、現在川田小学校に通学する塚本、下和田、大門、小出地域の児童の通学路が通れなくなる。

また、逆に川田、牛島から中学の方へ通う生徒たちが通えなくなる可能性があることから、地元の要望等を踏まえていただき、安全で、安心できる通学路、スクールゾーンの設置を今後検討していただくよう、願います。

また、関連して国道403号線における車の通行量が増えることによる影響についても検討していただき、403号を横切るときに対処して、安全安心な通学路の確保についても合わせて検討していただくよう、願います。

《回答》

1つはスマートインターチェンジの関係で、今使っている通学路が分断されることの対策、もう1つが、今後交通量が増えるに当たって、どのように通学路の安心安全を確保するか、という2点ご提案・ご質問いただいた。私からは、通学路全般の安全対策、今どのようにやっているかということについて概略を説明させていただきたい。

スマートインターについては、この後、別途建設部からお答えをさせていただきます。

まず、安全安心な通学路の確保については、日頃から住民の皆さんには見守り活動や、防犯パトロールなど、様々なご理解・ご協力をいただいておりますことを、まずもってここでお礼をさせていただきます。ありがとうございます。

通学路自体は、市や学校が決めるということではなく、地元、保護者の皆さんがどのルートが安全だということを考えていただき、学校に届けている。

その届けがあった通学路の安全をどう確保していくのか、ということで日頃から皆様のご協力もいただいているところである。

通学路のうち、どこがどう危なくて、どういう対策をしていくのかということだが、平成30年に新潟市で、児童が下校途中に殺害されるという非常に痛ましい事件があり、それを契機に、交通安全だけではなく防犯という面も含めて、緊急合同点検、その年に全国的に行ったが、長野市においても各地区から危険箇所を挙げていただき、関係者、学校、教育委員会だけでなく、道路管理者、警察も含め、合同で点検をした。

平成30年だけではなく、それから毎年点検を実施しており、毎年度各学校からここが危ないのではないかと、ここはどうだ、というようなことでご提案をいただき、関係者で対策をしている。

今年度については、若穂の関係では、保科小学校と綿内小学校から1カ所ずつ、交通安全の関係についてご提案をいただき、対策は今後順次実施していく。

今回、スマートインターチェンジまた大型商業施設に関わる安全通学路確保をどうしていくのかということで、同じような対策で、今後その計画の内容とか、また実際の交通状況、どのように変わりそうかということが明らかになってきた時点で、または予想ができるような時点で、関係者そろって安全対策をしていくことになる。

物理的な安全対策もあるし、子供に安全教育、交通安全教育なり防犯教育といった面でソフト面の対策もあるし、道路管理者がフェンスを作るとか、標識を立てるとかといった、関係者それぞれが、それぞれの立場で可能な対策を講じて、引き続き安全な通学路を確保していきたいと考えている。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

また、スクールゾーンの設置ということでご提案をいただいた。

スクールゾーン自体は規制ではなく注意喚起、ここは子供が多いので気をつけましょう、気を付けてくださいという注意喚起である。

現在も児童2人が歩いているシルエットが描かれた黄色い標識で通学路という表示をし、必要などころには安全柵、またはグリーンベルト、カラー舗装するというような対策もして、注意喚起をしている。

今後、生活道路に車が入り込んでくるような事態がもし生じるということであれば、注意喚起にとどまらず、場合によっては通行規制や時間規制等の速度規制という規制も可能かと思う。

これについては、警察との協議になってくるが、実際そのような規制をすると、お住まいの方が一番影響あるかと思うので、こちらにつきましては地元の皆さんでどのような対策がよいのか、よく話し合っていたきたい。

その上で、一番いい対策を今後も継続的にできればと考えている。

[前島教育次長]

《回答》

スマートインターチェンジは、皆様のご協力で今工事中である。

確かに川田小学校、川田こども園の方の通学路として通れなくなるところもあり、変更せざるをえないところがある。

これに関しては、地元の塚本、大門、川田の皆様はじめ、学校関係者、保育園関係者、保護者と相談をさせていただきながら、どこのルートがいいのか、またそのルートに関しては、市でできることがあれば、歩道を設置する、ちょっと狭ければ何をできるのかということは今後詰めて参りたい。

それから403号線の綿内のところで、信金まで繰り越しでやっていた県の工事が終わっている。

県に聞くと、今後そこから川田、綿内の駅の交差点まで進め、今年度は用地補償物件の調査というところへ入っていきたい、信金の側の方へどんどん進めていききたいという話をもらっている。

その中で、来年から、イオンが完成すると、当然403号にも千曲市の方からも流れてくるかと思う。

これに対しては、我々としても注意深く様子を見ながら、また交通量の把握をしながら、今後何ができるのか、県の事業に合わせて、市としても何ができるのか、考えて参りたいので、ご相談等あったときにはご協力をお願いしたい。

[松本建設部次長兼道路課長]

《その他》

《意見》

スマートインターについて伺いたい。

基本設計ができて、3年ほど前、地域説明会があった。

各地区からいろいろ意見が出たと思うが、その回答がどうもいまひとつはつきり出ない。

この間も道路課へ直通電話をして、今後、地域説明会がないのかと要望したが、やりましょうか、という程度の話である。

7月に「かわら版」が出た。これ見ると、もう計画決まりました、着々と進めていますというような書き方である。

住民は何も知らない。

令和6年度「ながの未来トーク」若穂地区集約表

先ほどから出ている通学路とか、アクセス道路がどうなるのか、地域の道路がどうなるのか、それすら一切情報もない。私、一番懸念しているのは、料金所の高さである。

最初基本計画は4.5メートルだった、今年出たのは5メートルに高くなっている。

最初の説明は、本線との高低差がありますから料金所は高くした、という説明だったが、どうもハザードマップの洪水の氾濫の高さで決めたような話が出ている。

確かに見ると、ハザードマップの洪水の高さと料金所の設定の高さが同じである。

50センチかさ上げされ、ハザードマップもランクが変わり、ワンランク上がって深くなっている。料金所で5メートル、周辺地域は全部水浸し、川田地区全滅である。

料金所だけ残ってよかった、そんなことでいいのか。基本的な考え方がおかしい。

もっとちゃんと住民に説明して、こういうことでやるということを、もっとはっきりと説明会を開いてやってもらいたい。これが一番の私の懸念である。

最後に、市の皆さんは若穂地区をどのように見ているのか。昭和41年、長野市と合併してもう58年、その時篠ノ井、川中島、更北、松代、若穂、南部地区と一括で言われているが、篠ノ井、川中島、更北は、昔は田んぼがあったが今はない、住宅地・商業地区である。松代は元々城下町で、それなりの発展をしている。だけど川田は50年たっても何も変わっていない。もっと言えば、衰退している。昔は近所に商店がいっぱいあったが、今全滅で、コンビニは確か4件、あとは商店が数えるほどしか残っていない。

衰退の一途をたどっているので、是非若穂はもっと困っている地区であるということ認識していただき、本当に若穂をもっと何とかしなきゃいけないということでは是非考えていただきたい。

《回答》

若穂スマートインターチェンジについて、地元の若穂スマートインターチェンジ対策委員会があり、その中で随時ご報告をさせていただいているが、委員会の中でよく揉み、その中で開示する方法等を検討したい。それからスマートインターチェンジの（料金所の高さ）5メートルになった理由、実は台風19号の災害等を受けて、電気系統が全部やられると即座に復旧ができないので電気系統だけは守っていこう、ということで防災マップから高さを決めさせていただいているところであり、ご理解をいただきたい。

[松本建設部次長兼道路課長]

《意見》

このスマートインターは、長野市でも非常に重要な交通網の位置づけになっており、例えば新幹線の場合は長野駅、自動車でも県外からとか地方からおいでになる方はこのインターが玄関口であるかと思う。そこで若穂という意味ではなく、長野市の玄関口として考えていただけるのか、もし玄関口として考えていただけるのなら、市はどのような展望・展開・ビジョンを持っているのか。

《回答》

松代にインターチェンジ、それから須坂に東インターチェンジがある。長野の玄関というのは今のところ松代であるが、そこと若穂、須坂東と、その3つを考えながら、今後も、観光、経済に向けて、長野市も考えていきたいと思っている。少し細かいことになってしまうが、ネーミング、例えば何インターになるのか、今、仮称若穂スマートインターチェンジとなっているが、それについても地元第一で、まずは若穂の皆様にご協議させていただきたい時期が来ると思っているのと、これ（若穂スマートインターチェンジ）を通り落合橋が新しくなると、こちらの方で降りて善光寺御開帳へ行くのも近いのかなと思っており、我々もルート等を考えながら進めて参りたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

[松本建設部次長兼道路課長]

《意見》

若穂は、道路とか千曲川新道とか、そういった物理的な課題が多く、それも非常に大事だと思う。ぜひ長野市の協力を得て、早く実現できるようにしてもらいたい。

地域の発展とか住みやすい地域とか、そういったものを考えるときに、物理的なものの発展だけじゃ駄目で、やはり人の心に潤いというものが育まれてこない和生活しやすい地域にならないと思う。それには文化の向上というものが大事だと思う。文化のことで言うと、私は、市報に出てくる市長のエッセーのファンで、長野市の一つの文化の方向性、そういったものを示す一つだと思う。

若穂は、有志のいろんな集まりがいろいろあるが、結構文化的なものも多いと思う。

それに関連して、平成 24、25、26 年頃だと思うが、長野市から、歴史的風致維持向上というものが出来て、長野市の中に 3 つが指定された。善行寺、戸隠、鬼無里、もう 1 つ松代、若穂である。

若穂の中に指定されたのが、河東線がなくなったので、その河東線の鉄道の跡を遊歩道と自転車道路にする、これが具体的に 1 つ、それからもう 1 つは、それに関連して、川田駅・綿内駅の跡地利用、それからもう 1 つ一番大きな目玉が川田宿の利用である。

もう 10 年以上経っているわけであるが、鉄道の跡の遊歩道と自転車は、綿内駅の北までできてきて、とても役に立っているなどと思う。それから、綿内駅跡地も整備していただいて、綿内地区のまちづくり委員会がいろいろなイベントをやっている。

それから川田宿も「川田宿ガイド」ができています。

私がお願いしたいのは川田駅である。川田駅はどうするかという案が出たかというのと、河東線のメモリーパークにするという案であった。

一時期 2000 系の電車があったが、いつの間にかなくなっている。

そのメモリーパークにするという計画がどうなったかということが一つと、もう一つは、川田駅のもう一つの目玉が、太平洋戦争のときにアメリカ軍によって爆撃されたあとが天井に残っていることである。

1945 年 8 月 13 に爆撃にされて、他のところもやられたが、あとが残っているところがほとんどない。

だからそこら辺を生かして、若穂の文化の向上のためにも、川田駅の跡地利用をもう一度考えていただきたい。

「若穂まちづくり計画」の中にもしっかり入っている、風致のことをもとにして、若穂でも駅の跡地づくりの計画を立てることが載っている。若穂と市の方で、もう一度考えながら、若穂の一つの文化の向上、長野市全体の役に立つかなと思っている。

よろしくお願いしたい。

《議長》

時間の関係上、回答については後日お願いする。

《まとめ・総括》

《西澤住民自治協議会会長》

討議ありがとうございました。

今朝の新聞に自治協議会の役員、女性の参画で 32 地区住民自治協議会があるが、平均 17.5%、若穂は 10.8%と、長野市全体で目標が 30%ということで、大分若穂も低いので、これから参画に努力していきたいと思う。

若穂には、期成同盟会や対策委員会等々あるので、早期に解決していただくよう市の協力をお願いしたい。

たくさんの課題が若穂にあり、対応をよろしくお願いしたい。

《市長総括》

西澤会長はじめ、今日は自治協の皆さん、ご出席いただいた皆様に、貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございました。

今回議題また自由討議の中にあつた、例えば、道路の関係については、私も落合橋の架け替えの建設期成同盟会の会長を務めており、関連する県道・国道など、数多くの期成同盟会会長を務めている。

今後、一層県、国に対して、早期の事業実現、あるいは予算確保のために、また県内のみならず国土交通省にも出向かせていただいているが、こういった活動に一層力を入れていきたいと思っている。公共交通については、人口減少という側面の中にあつても、やはり地域の皆様の生活の足、特にご提案のあつた若い世代、高校生の皆さんの足の確保については、大変重要な取り組みだと思っている。これはもう市行政としても年々非常に予算を拡大していく一方であるが、そうは言ってもやはり皆様の生活を守っていくためにも大事な取り組みだと思つるので、また地域住民の皆様の話を伺いながら、取り組んでいきたいと思っている。

今日は保健ステーションの話、数年前と何も変わつてないじゃないかというお叱りをいただいた。多分これコロナ前の未来トークなのか、ようこそ市長室へなのか、その後継続して議題としてなかつたもので、私としても市長になって、実は今日初めてお伺いをしたところである。前市長時代にはそういったお話があつたかもしれないが、市長が変わつたり、あるいは長期間議論がなくなつたりするとどうしてもその引き継ぎがなかなかされてないという、行政の悪いところが露呈したと考えており、心からお詫びを申し上げたいと思う。今日皆さんから切なる願いを、私としても受け止めさせていただいた。なかなか条例を変えるようなところは難しい側面があるという保健所長のお話があるが、時代の変化あるいはニーズの変化に伴つて、保健センターの役割が、今どういったことを求められているのか、ということも、再度検討していきたいと思つし、若穂だけの問題ではないと思つ。全市しっかり見据えながら、すべての保健センターでどんな対応ができるのかということも、今日はしっかり持ち帰らせていただいて、検討をさせていただきたいと思つている。

若穂をどう考えるのか、というお話をいただいた。私としては、長野市、ある地域で、例えば「うちの地域どう思つているんだ」と言われれば、それは大変大事に思つているということにはなつてしまうと思つが、同じように若穂も大変大切な場所だと捉えている。だからこそ、この夏、子供たちと一緒にラジオ体操をやらせていただいたり、お祭りを通して、地域住民の皆様と、先ほど心の触れ合いというお話がありましたが活動を深めて参りたいと思つし、秋の「とびっくラン」復活ということも含め、私も一緒に走る予定とさせていただく。

この若穂は、私の認識の中では、非常に農業の盛んな地域で、山新田の再開発、改良の話もあり、非常に全国的に見ても、これだけ農地豊かな、農産物が本当にたくさん取れる地域は他にないと思つており、かえつて市街化がどんどん進むということよりもこの美しい自然を守つていくのが、だからこそ、この若穂があるからこそ長野市ではないかなということも考えている。とは言つても、地域住民の皆様が、この若穂をどうしていきたいか、ということも重要なことであるので、本日、加藤議員がご出席いただいているが、若穂を代表する議員、そして本日ご出席いただいている皆様のご意見をしっかり受けとめながら、事業を進めていきたいと思つし、その際は、しっかり説明を皆様に申し上げたいと思つている。

本日、本当に貴重なお時間いただき、ご意見いただいたことに、心から感謝を申し上げ、挨拶とする。今後ともどうぞよろしくお願ひする。